



パラグアイの 農牧業概要



令和6年3月18日
在パラグアイ大使館

松永 正光



パラグアイ国概要



1 パラグアイの概況

- 面積 : 40万6,752km² (日本の約1.1倍)
- 人口 : 約678万人 (世銀2022年)
- 主要産業 : **農牧業 (大豆および牛肉)**、
製造業 (自動車部品など)
- GDP構成比 : **一次産業 9.2%**、二次産業 33.6%、
三次産業 49.7%、その他 7.5%

2 主要経済指数

- GDP : 約417億米ドル (世銀2022年)
- 経済成長率 : 0.1% (2022年)、4.5% (2023年暫定)
- 一人あたりGNI : 6,153米ドル (世銀2022年)
- 失業率 : 6.9% (世銀2022年)
- インフレ率 : 3.7% (年間中央銀行2023年)

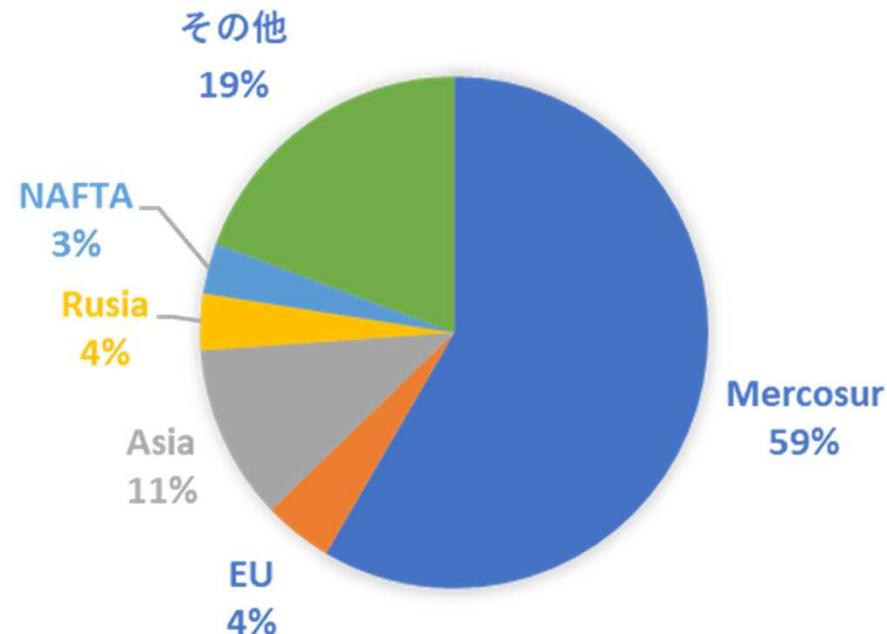
3 貿易統計 (2022年)

- 貿易額 輸出 : 99.5 億米ドル 輸入 : 151.9億米ドル
- 主要品目 輸出 : **大豆 (大豆粉、大豆油含む)**、**牛肉**、電力
輸入 : 機械及び機械部品、中間材、燃料、自動車
- 主要貿易相手国 (2022年、パラグアイ財務省)
輸出 : ブラジル、アルゼンチン、チリ、ロシア、米国
輸入 : 中国、ブラジル、アルゼンチン、米国、インド

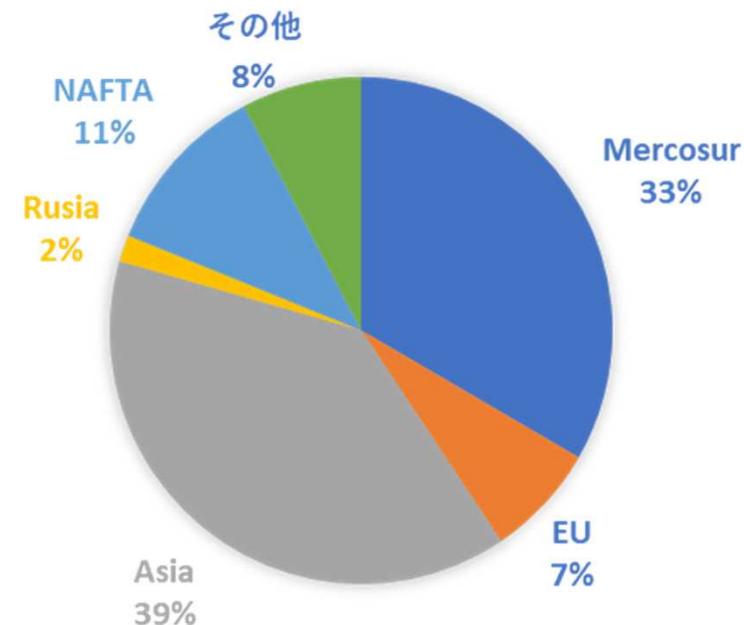
【対日貿易】 (2022年)

- 貿易額 : 輸出 : 15.8百万ドル 輸入 : 209.9百万ドル
- 主要品目 : 輸出 : **飼料 (植物性油かす)**、**ごま (採油用)**
輸入 : 輸送用機器、電気機器、ゴム製品

主要輸出先 (2022年1~12月)



主要輸入元 (2022年1~12月)





パラグアイ農牧業概要



4 主な農林水産物の生産・貿易動向

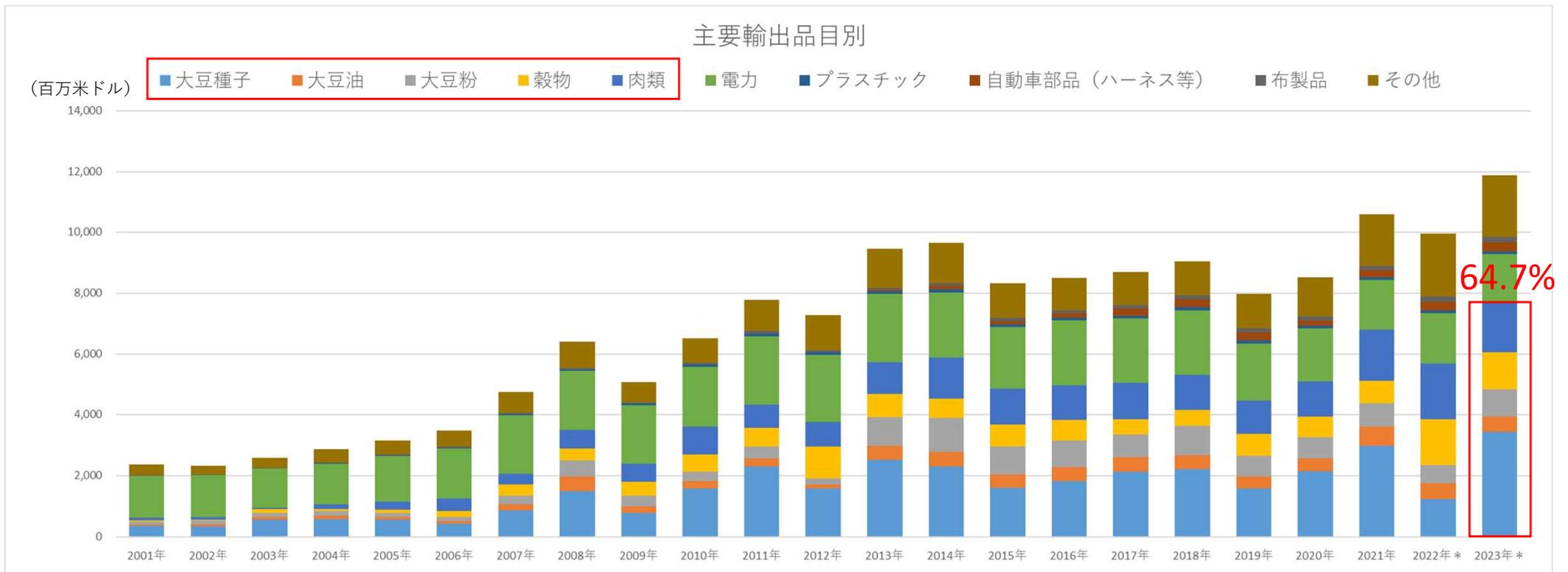
○主要な農林水産物は大豆、牛肉、とうもろこし、米、小麦

○農林水産物（食品）輸入額は約7.1億米ドル（2023年）

主な輸入品目は、冷凍・冷蔵品、砂糖・菓子類、乳製品、豆類・野菜類、果実類

○農林水産物輸出額は約77億米ドル（2023年）

総輸出額の64.7%。主要な輸出品目は大豆類、牛肉、とうもろこし、米、小麦



出典：パラグアイ中央銀行

*暫定値



パラグアイ農牧業概要



5 気候・農地概要



- 国土の大半は丘陵及び平原地帯
- パラグアイ川により**東部地域**、**西部地域**に二分
 - ・**東部地域**（国民の約97%が居住）
年間を通じて温暖な気候で雨量も多く、テラローシャと呼ばれる赤色土壌は非常に肥沃で多くの作物栽培に適し、広く雨水に頼った農・牧畜業が営まれている。
 - ・**西部地域**（残りの約3%が居住）
主に放牧地として利用されているが、近年、大豆等の農地としての利用面積が急拡大している。
- 河川航路**（パラグアイ川及びパラナ川）の重要性は極めて高く、輸出入を含めた物流の約8割が河川を経由している。



パラグアイ農牧業概要



6 農地利用状況等

●国土面積40,675千haのうち、農用地3,253万ha。総農家数は約29万戸

小農（経営規模が20ha未満）：全農家数の82% 平均経営規模 5ha

大農（経営規模が500ha以上）：全農用地の78% 平均経営規模 3,471ha

分類	経営規模			合計
	小農 (~20ha)	中農 (20~500ha)	大農 (500ha~)	
農家数	約24万	約4.5万	約0.7万	約29万
面積	約127万ha	約379万ha	約2,535万ha	約3,253万ha
平均経営規模	5.3ha	84.2ha	3,471.3ha	104.3ha



パラグアイ農牧業概要



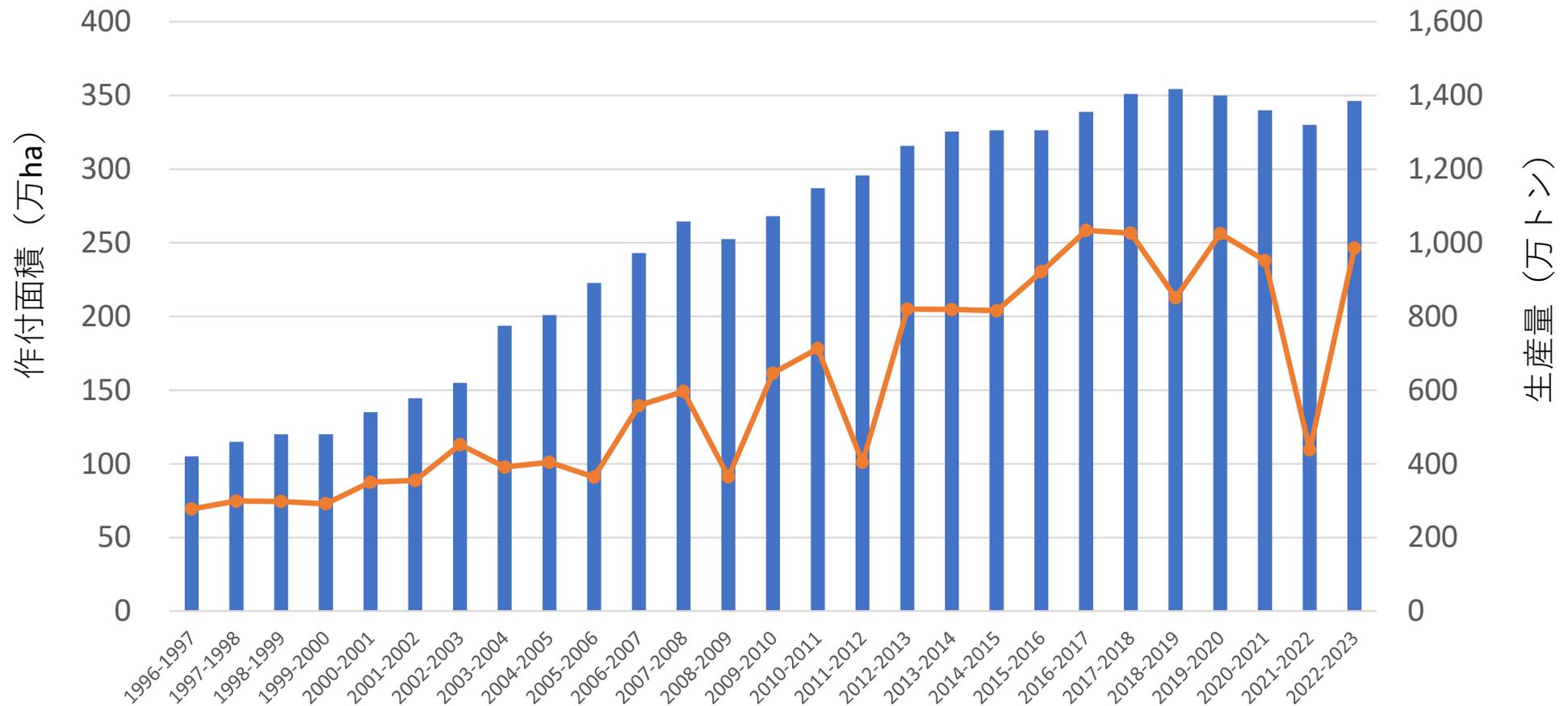
7 主要農産物の生産状況

- 大豆（22/23年）の作付面積3,462千ha、生産量9,860千トン、輸出額4,826百万ドル
- トウモロコシ（23年）の作付面積850千ha、生産量5,000千トン、輸出額751百万ドル
- 小麦（23年）の作付面積470千ha、生産量893千トン、輸出額67百万ドル

(1) 大豆

1) 作付面積及び生産量

大豆の作付面積及び生産量の推移



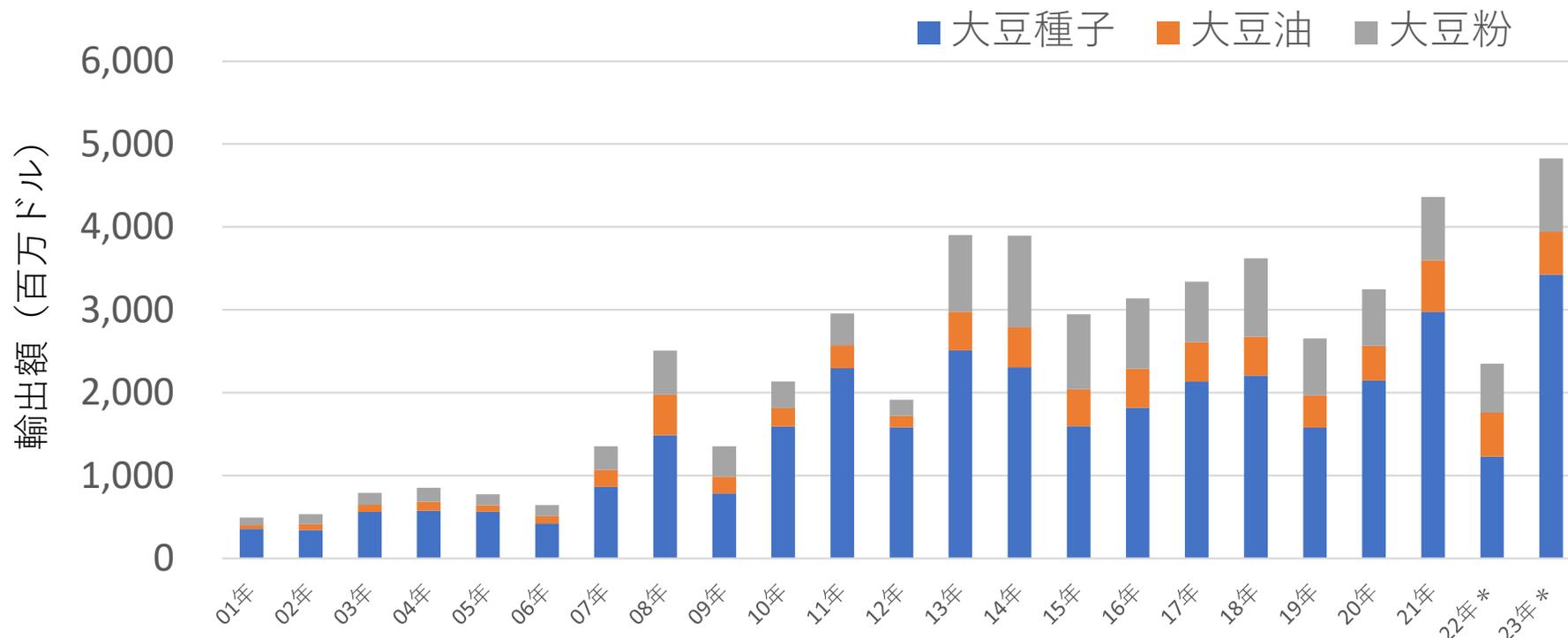


パラグアイ農牧業概要



2) 輸出額

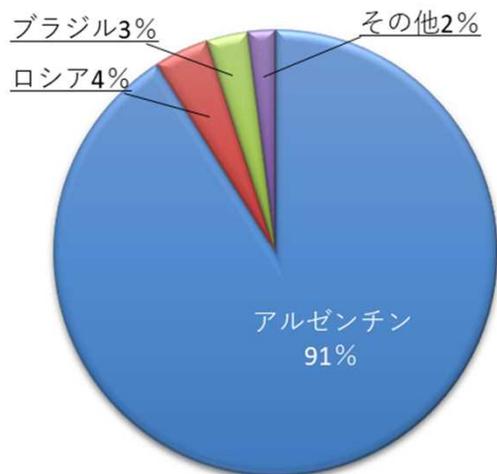
大豆の輸出額の推移



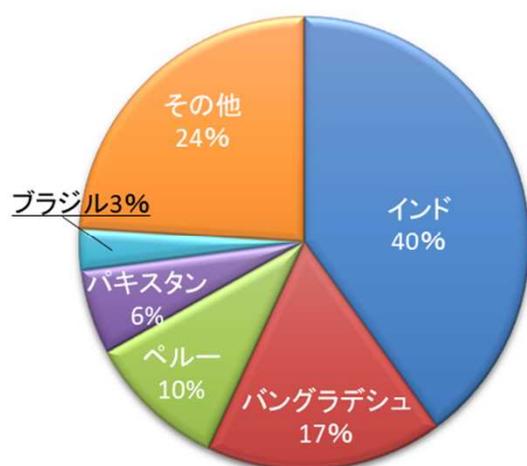
出典：パラグアイ中央銀行

3) 輸出先国

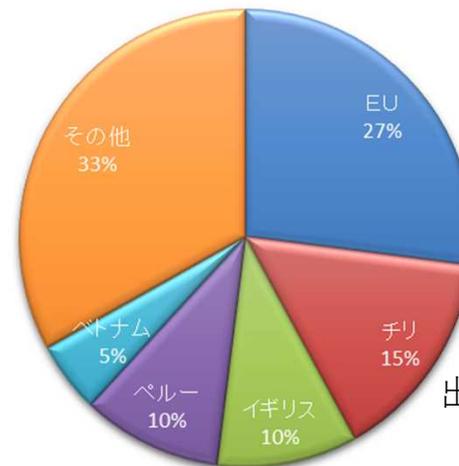
大豆 (2023年)



大豆油 (2023年)



大豆粉 (2023年)



出典：穀物・油糧作物輸出協会 (CAPECO)



8 主要畜産物の生産状況

●牛肉

- ・ 輸出量は316千トン、輸出額は1,506百万ドル。
- ・ 主な輸出先国及び割合は、チリ50%、台湾14%、ブラジル12%、ロシア8%、イスラエル4%であり、全世界約50カ国へ輸出。
- ・ 2023年11月には米国向け冷蔵・冷凍肉の輸出が解禁され、2024年1月に約500トン輸出。2024年1月にはイスラエル向け骨付き牛肉の輸出が解禁。
- ・ この他、パラグアイ政府は日本の他、カナダ、韓国との輸出協議を継続中。

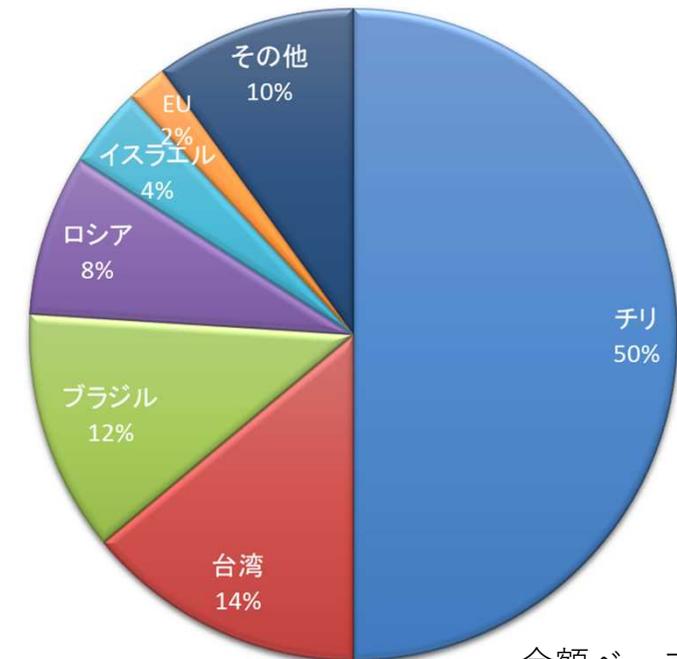
直近5年間の牛肉の輸出実績

牛肉	19	20	21	22	23
輸出量 (千t)	247	271	327	334	316
輸出額 (百万米ドル)	1,023	1,116	1,599	1,722	1,506

※臓物類及び非食部位除く

出典：国立家畜品質・衛生機構（SENACSA）

牛肉の主な輸出先国（2023年）



金額ベース



パラグアイ農牧業概要



●豚肉

- ・ 輸出量は7.6千トン、輸出額は19,135千ドルと前年に比べ6倍以上の増加。
- ・ 主な輸出先国及び割合は、台湾72%、ウルグアイ21%、ジョージア6%。
- ・ パラグアイ産豚肉の対台湾輸出は2022年11月に解禁され、2023年には最大の輸出国となった。2024年1月の輸出額でも全体の85%を占めており、この傾向は継続見込み。

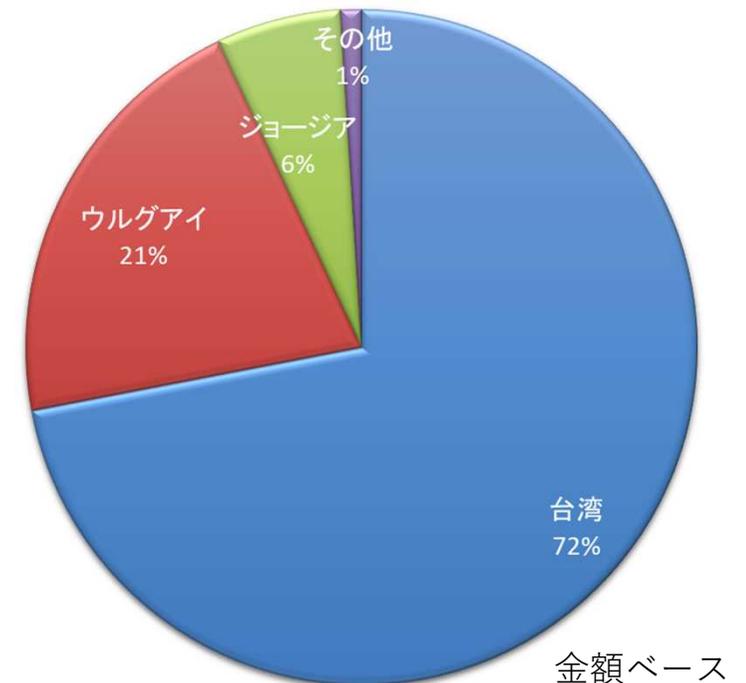
直近5年間の豚肉の輸出実績

豚肉	19	20	21	22	23
輸出量 (t)	2,536	2,813	2,079	1,184	7,602
輸出額 (千米ドル)	7,292	6,283	4,961	2,854	19,135

※臓物類及び非食部位除く

出典：国立家畜品質・衛生機構（SENACSA）

豚肉の主な輸出先国（2023年）





パラグアイ農牧業概要



9 日系農業者

- 日系農業者の団体は、①日系農業中央会と傘下の5つの農協（②アマンバイ農協、③ラパス農協、④ピラポ農協、⑤コルメナ・アスンセーナ農協、⑥イグアス農協）により構成される。
- また、⑦パラグアイ農牧総合試験場（CETAPAR）を日系農業中央会、FECOPROD及びUNICOOPにて共同で運営している。

②アマンバイ農協

主要農作物	生産面積	生産量
大豆	1,075ha	2,169t
トウモロコシ	800ha	3,700t

③ラパス農協

主要農作物	生産面積	生産量
大豆	14,000ha	42,000t
小麦	8,000ha	16,000t
トウモロコシ	1,500ha	8,000t

④ピラポ農協

主要農作物	生産面積	生産量
大豆	22,480ha	75,770t
小麦	3,310ha	8,480t
トウモロコシ	4,715ha	28,340t

⑤コルメナ・アスンセーナ農協

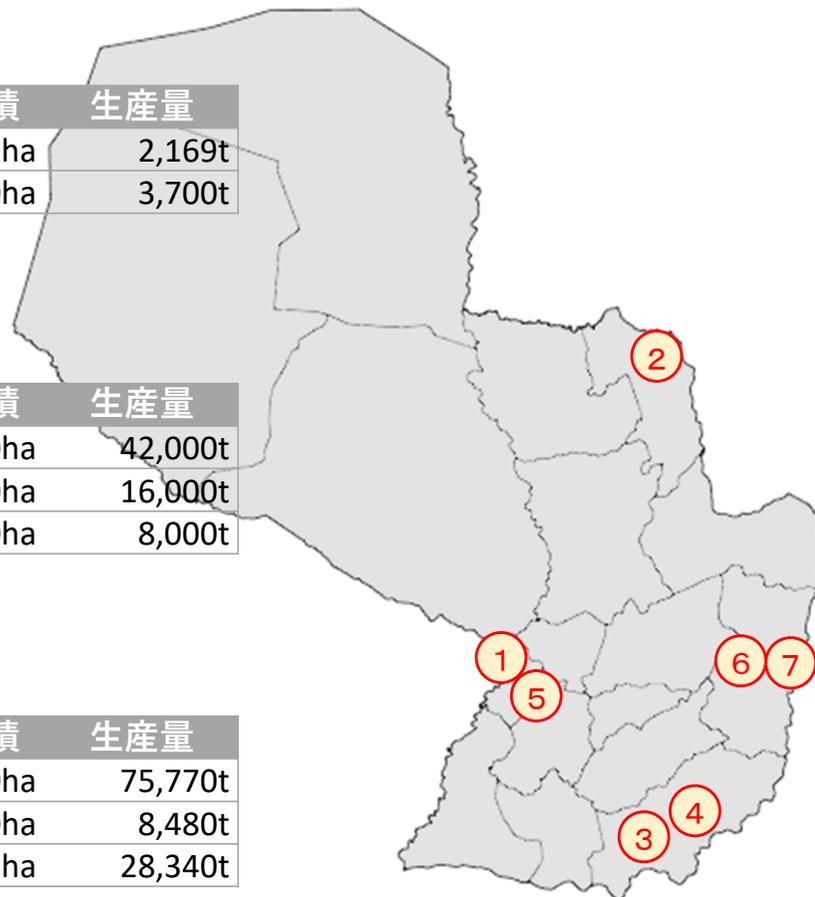
主要農作物	生産面積	生産量
トマト	12ha	593t
レモン	15ha	267t
ブドウ	19ha	110t

⑥イグアス農協

主要農作物	生産面積	生産量
大豆	15,000ha	59,000t
小麦	3,200ha	7,800t
トウモロコシ	3,700ha	16,000t
マカダミアナッツ	80ha	50t

⑦CETAPAR

主な活動内容
・分析（土壌、肥料、農薬、種子等）
・試験（新品種の適地試験）
・農場管理（不耕起栽培下での輪作体系）
・プロジェクト（大学等との共同研究）





パラグアイ農牧業概要



10 主な農牧業関連の日本企業等※

・ SHIROSAWA COMPANY

1971年創立、社員数165名

ゴマ、ピーナッツや等の農産物を輸出。



・ Yemita 前原農商工

1992年創立、社員数300名以上

鶏卵の生産及び販売。この他、牧場や農場にて牛肉や大豆等の農畜産物を生産及び販売。



・ 黒須カンパニー

1975年創立、社員数340名

農業用機械ジョンディアの代理店。ヤンマー社の製品も取り扱う。



・ HYPERGRAIN S. A.

2014年創立、社員数70名

ゴマ等の農産物をアジアやEUへ輸出。



・ GL SOUTH AMERICA S. A.

2013年創立、社員数50名未満

ツネイシグループ企業。河川輸送や牧畜や農作物を生産及び販売。



・ FRESH FOOD

2014年創立、社員数60名

国内のチェーン店等へ野菜や果物を販売。



※日系人が現地で起業した企業を含む

11 日本食の普及状況

- ・ 国内の日本食レストランは約60店舗（2023年）
- ・ 日本食普及の親善大使は中南米19名のうち、最も多い4名が任命。





パラグアイ農牧業概要



1 2 展望 (コネクティビティの向上)

両洋間横断回廊：パラグアイとアルゼンチンを経由してブラジルとチリを接続



